

記念講演&トークセッション 9/6[土]

「生活に息づく芸術（アート）ー民藝はその一つの指標となるか？」

誕生からおよそ 100 年が経った「民藝」の美意識。提唱者で宗教哲学者の柳宗悦（1889-1961）は、その土地に根づいた素材と技法に寄り添い、誠実な手仕事によってつくり出された生活道具に「健やかな美しさ」を見いだしました。それは、殆どの人が気にも留めない、当たり前の「生活」に目を向けるものでした。時代が流れ、スタイルが変化しても、人々の生活はずっと続いていくものです。時代を超えて、「民藝」が注目されるのは、そんな生活に根を持つ美意識だからでしょう。哲学者と作り手というそれぞれの立場から、「生活」と「芸術」、そして、それらをつなぐ「民藝」について、お話いただきます。



日 時：9月6日（土）13:30～16:00（開場は13:00）

第1部：記念講演「いまなぜ民藝か」 13:30～14:20

講 師：鞍田崇氏（哲学者、明治大学理工学部准教授）

第2部：トークセッション 14:30～16:00

登壇者：鞍田崇氏（同上）、安藤雅信氏、内田鋼一氏（いずれも出品作家）

コーディネーター：マルテル坂本牧子（当館学芸員）

会 場：当館研修棟1Fセミナー室

定 員：110名（事前申込制、先着順）

参加費：無料 ※ただし、本展の観覧券（半券可）が必要です。

【講師・登壇者プロフィール】

鞍田 崇（くらた・たかし）氏

1970年兵庫県生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科修了。博士（人間・環境学）。2014年より明治大学理工学部准教授。民藝を現代の視点から捉え、その本質を再考する。主な著書に『民藝のインティマシー「いとおしさ」をデザインする』（明治大学出版会、2015年）、『民藝のみかた』（監訳・解説、作品社、2024年）など。

安藤雅信（あんどう・まさのぶ）氏

1957年岐阜県生まれ。武蔵野美術大学彫刻科卒業後、郷里の多治見に戻り、作陶を始める。和洋問わず使用できる日常食器の定番や茶道具など 3000種類以上を考案しつつ、彫刻的な立体作品も手掛ける。1998年に古民家を移築してギャラリー百草を開廊。2000年に若手作家を支援するstudio MAVO 開設。主な著書に『どっつかずのものづくり』（河出書房新社、2018年）、『茶と糧菓』（小学館、2020年）など。

内田鋼一（うちだ・こういち）氏

1969年愛知県生まれ。愛知県立瀬戸窯業高等学校陶芸専攻科修了。製陶所で轆轤の賃挽き職人として働いた後、世界各国の窯業地に滞在し、多種多様な陶技を体得する。1992年に三重県四日市市で独立。世界の古美術に造詣が深く、作陶のみならず、様々な分野の仕事をこなしている。2015年に私設美術館「BANKO archive design museum」を設立し、キュレーターとしても活躍。



1. 安藤雅信 《泥釉シリーズ茶器揃》2024-2025年
2. 内田鋼一 《White Bowl》2018年

《お申込み方法》

- 1 WEB … 当館ホームページからお申込み下さい。
- 2 電 話 … 下記お申込み先へお電話ください。

※ お申込み後に人数変更・キャンセルされる場合は、必ずご連絡ください。

【お申込み・お問い合わせ先】

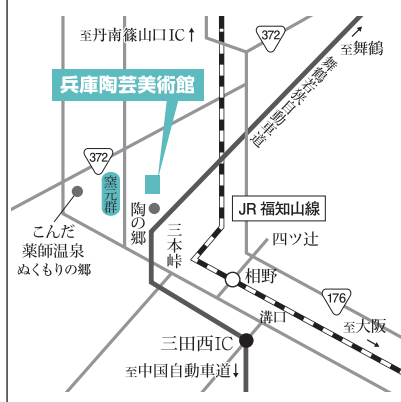
兵庫陶芸美術館 学芸課
〒669-2135

兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 4

TEL 079-597-3965

HP <https://www.mcart.jp>

ACCESS



交通のご案内

鉄道・バスをご利用の場合

- JR福知山線「相野駅」下車（大阪駅から約50分）
駅前からウィング神姫（路線バス）「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約15分、「兵庫陶芸美術館」下車
※相野駅発バス時刻は当館ホームページでご確認ください。

自動車をご利用の場合

- 舞鶴若狭自動車道「三田西IC」から約15分、または「丹波篠山口IC」から約20分
- 中国自動車道「滝野社IC」から国道372号を東へ約30分
- 阪神方面から国道176号を北上し、三田市四ツ辻交差点を左折約15分
- 駐車場無料（敷地内 普通車58台分）、大型可

その他

- 無料貸出有（車椅子4台 ベビーカー2台）



土と語る、森の中の美術館

兵庫陶芸美術館

The Museum of Ceramic Art, Hyogo